

# いい病院 2014

手術数でわかる

## 社会医療法人医真会グループ 医真会八尾総合病院



外来診療は医真会総合クリニックで行われる

### 社会医療法人医真会グループ 医真会八尾総合病院

外来診療時間：月～金 9:00～12:00  
※救急・急患は24時間受付。リハビリテーション科以外の外来診療は医真会総合クリニックにて行っています。  
〒581-0036 大阪府八尾市沼1丁目41番地 TEL.072-948-2500(代) http://www.ishinkai.or.jp/

正座を目指せる人工膝関節置換術も可能な  
高い技術で膝疾患に悩む患者を長期的にサポート



整形外科医長 奥田 真義

おくだ・まさよし ●医学博士。1997年に奈良県立医科大学卒業後、同大学整形外科教室入局。ドイツ留学（ベルリン、ペーリング病院）や、奈良県立奈良病院救命救急センター医員などを経て現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医

**膝のエキスパートとして幅広い症例を受け入れる**  
高齢者に多い変形性膝関節症、スポーツによる靭帯断裂など、膝のトラブルに悩む人は数多い。大阪府八尾市の医真会八尾総合病院では、膝に特化した外来診療を設けるなど、その治療に力を入れ、幅広い年齢層の患者を積極的に受け入れている。

整形外科医長の奥田真義医師は、「私自身が膝前十字靭帯手術を受けており、それをきっかけとして膝の治療を志したのです。自身自身の経験からも、できるだけ手術を避けられるような方法を考えています」と、患者の立場での医療を徹底しており、症状が軽い患者であれば、装具や薬物療法

などの保存的治療を優先的に選択する。たとえ手術を要する症例でも、可能であれば、関節を温存できる高位脛骨骨切り術を行うなど、できる限り侵襲の少ない方法を心がけるといふ。

**早期復帰、高い可動域を目指す人工膝関節置換術**  
その姿勢は、重症例に対する人工膝関節置換術でも表れている。奥田医師は、ほとんどの症例でMIS（最小侵襲手術）を実践して切開を抑え、筋肉や靭帯の損傷をできる限り抑えているのだ。「患者さんによっては翌日の離床も可能となります。その後も正しいリハビリを行うことで、正座が可能な程の可動域を目指す方がいらつしやいます」と、それが早期復帰や、より高

い手術効果につながっているといえる。

MISに加え、奥田医師は手術の痛みにも配慮している。まず、表皮ではなく、その下の真皮を吸収糸で密に縫合することで、術後の抜糸を不要にしている。その上で、「術後は関節内に貯まる血液を抜くための管を留置することが一般的です。それに対し、出血を抑え、止血を徹底することで管を留置しないよう努めています」と、負担を減らすことを徹底している。出血の軽減には手術時間を短縮していることも大きく、それはまた、一度の手術で両膝を治



症例によっては正座も可能に



人工膝関節置換術を行う奥田医師

療する「両膝同時手術」をも実現させているという。

「私自身も体を動かすのが好きでして、『せっかく手術をされたのだから積極的に動いてください』と患者さんにはお伝えしています。中には卓球やゴルフ、ソフトボールなど、スポーツを満喫されている方もいらつしやいます」と奥田医師。活動性を高められるような手術の提供や、万が一問題が起こったとしても対応できる体制、さらには患者全員を長期的にフォローし続けようとする責任感を持つからこそ言えるのだろう。

取材／鈴木健太